

科 目 名	物理療法学【理学】					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	堤 恵理子						
開 講 年 次	2	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	必 修（理学）
授業の概要 及びねらい	物理療法は理学療法の構成要素として、適切な時期に導入する手段である。この授業では物理療法の理念ならびに疾患や障害に適した治療方法の選択について講義する。物理療法の手技や考え方を理解するためには、1年次に学習した生理学の知識が必要不可欠である。						
授 業 の 到 達 目 標	1. 物理療法を理解するために必要な生理学の知識の整理 2. 温熱療法の適応と禁忌について説明できる。（ホットパック・パラフィン・超音波・極超短波） 3. 牽引療法の適応と禁忌について説明できる。（頸椎牽引・腰椎牽引） 4. 水治療法の適応と禁忌について説明できる。 5. 寒冷療法の適応と禁忌について説明できる。 6. 電気療法の適応と禁忌について説明できる。（TENS・低周波/干渉波治療） 7. 物理療法に関する基礎的な国家試験問題が解ける。						
学 習 方 法	前半は講義中心で、後半は実技中心で学習する。						
テキスト及 び参考書等	千住 秀明（監修） 沖田 実（編集）：物理療法 第2版 神陵文庫						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%		
定期試験	◎	◎				70	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			5	
受講者の発表				◎		20	
授業への参加度			○			5	
その他	授業態度、定期試験などから総合的に評価する。						
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	温熱療法						
第 2 週	極超短波／超短波療法						
第 3 週	水治療法／超音波療法						
第 4 週	牽引療法 電気療法						
第 5 週	極超短波／超短波療法						
第 6 週	寒冷療法／光線療法						
第 7 週	電気療法						
第 8 週	中間試験						
第 9 週	実技：温熱療法						
第 10 週	実技：極超短波／超短波療法						
第 11 週	実技：水治療法／超音波療法						
第 12 週	実技：牽引療法／電気療法						
第 13 週	実技：極超短波／超短波療法						
第 14 週	実技：寒冷療法／光線療法						
第 15 週	実技：電気療法						
第 16 週	試験						
備 考	授業外学習（事後学習）の指示						